

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 14 December 2016

日本産科婦人科学会員の医師による実地指導

12月4～10日の間、順天堂大学より寺尾医師と太田医師が派遣され、プロジェクト対象のクメールソビエト病院、カルメット病院、国立母子保健センター病院での技術指導、ミニレクチャーとして講義や症例検討会を2回開催しました。

今回の我々の使命は継続的なコルポスコピー検査の指導、Registration bookの使用状況の確認、慶應大学が導入してくださったexcelを利用した患者登録台帳の利用状況の確認、来年5月の臨床細胞学会の抄録作成の手伝い、症例検討会、ミニレクチャーでした。

若手医師はどの病院もコルポスコピーの手順から所見の取り方まで特に問題なく施行できていましたが、まだ、一部の病院ではコルポの写真撮ってなかったのが、記録の重要性を再度指導いたしました。Registration bookはいずれの病院も使用開始していました。excelを利用した患者登録台帳を作成しているのはクメールソビエト病院のみでした。病院の現状に合わせた改良版の患者登録台帳作成を依頼されました(写真1)。Registrationについては病院あるいは先生によって意識がことなり、継続した指導が必要と思われました。

ミニレクチャーは12月5日午後1時に Preventive Medicine、12月7日午後1時に How to write medical record 2、colonoscopy and cervical conizationの講義を行いました。カンボジアには予防医学やcancer screeningの概念がありませんため、いわゆる健診と検診について講義しました。preventive medicine以外にも適切な細胞診標本の採取・作成方法についても講義を行いました。その講義でクメールソビエトの医師たちが自分たちのサンプリングが間違っていないと自信を持ったようで、翌日に病理室と一緒に来て欲しいとお願いされました。翌日、病理室と一緒に行き問題症例について、婦人科医と病理医と一緒に顕微鏡を見ながら論議ができました。Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer No. 10にも書かれていますが、臨床医と病理医のコミュニケーションが希薄なようでしたので、その懸け橋になれたのではないかと思います(写真2)。入院カルテはあるが外来カルテが存在しない病院もあるため、How to write medical recordの講義を行いました。カルテの必要性やカルテ記載方法について講義し、Case reportを行うには記録を継続的に残すことを強調しましたので、カルテの重要性を理解していただけたのではないかと思います。しかし外来カルテ導入にはシステムの問題もあり簡単でないことも痛感しました。

7日午後1時に症例検討として6日午後1時に急遽プレゼンの準備をクメールソビエト病院の医師2人に指示しました。症例検討は8月から開始されており、コルポの写真も提示されていたので、理解しやすいものになっており活発な議論が行われました。コルポの写真がなければ不十分なものになっていったと思いますし、ここでも記録の重要性を強調できたと思います。6月から継続的に行われている指導が根付いてきており、程度の差はありますが進歩していると感じました。

このような貴重な機会を賜りました JICA はじめ日本産科婦人科学会にも感謝申し上げます。さらに現地でいろいろとコーディネートしてくださった松本安代先生、JSOG カンボジア支部員の野中愛恵様に感謝申し上げます。

順天堂大学産婦人科 太田剛志 寺尾泰久



(写真1) 患者登録台帳の作成指導風景



(写真2) 婦人科医と病理医との懸け橋



(写真) ミニレクチャー



(写真) 感謝状授与式

プロジェクトを取り巻く動き

- 12/1-10: 松本安代医師カンボジア派遣
- 12/2: 新規の工場(2社)での健康教育について打ち合わせ
- 12/4-10: 順天堂大学より寺尾泰久医師、太田剛志医師カンボジア派遣